

2018年度 受賞



NHK 厚生文化事業団 ニューウェーブ賞(特別賞)

受賞日：2018年12月

作業療法学科
松下 太 先生

「また、サーフィンしたいなあ・・・」という元サーファーであった認知症の人のつぶやきが発端となり、大阪の当事者団体と三重県志摩市の当事者団体や行政等が連携し、翌年の夏に若年認知症の人のサーフィンプロジェクトを実施することになり、私自身も企画の段階から関わらせていただきました。無理とされがちな本人の夢を聞き流さず、地元の地域包括センターや市民病院、医学部学生、サーフィン連盟、認知症介護指導者など多岐にわたる人々が夢の実現に向けてすばやく連携し力を合わせた結果、認知症の当事者3人らがサーフィンを楽しむということができました。この取り組みが、認知症の人にとってのやさしいまちを実現していくステップアップにつながっていると認められて、2018年のNHK厚生文化事業団「認知症にやさしいまち大賞」でニューウェーブ賞をいただきました。

これからも、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの一翼を担えるような取り組みを継続していきたいと思っております。



ベストポスター賞

学会名：第 43 回日本足の外科学会

5th Ankle instability group annual meetin
の合同学会（2018 年）

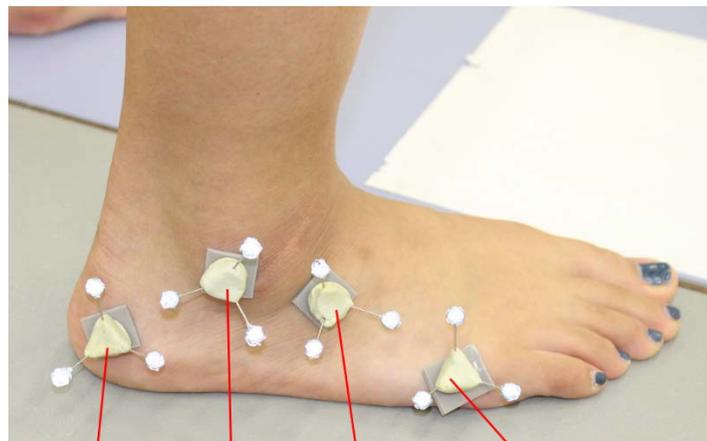
テーマ：慢性的足関節不安定症の振り向き動作時の足部挙動につ
いて

理学療法学科
工藤 慎太郎 先生

今回の研究は慢性足関節不安定症（CAI）という病態に着目した研究です。スポーツでは足首の捻挫は頻度の高いケガで、“たかが捻挫”という誤った認識が多いのもこのケガの特徴です。しかし、足首の捻挫は、足の靭帯損傷であり、私達の先行研究では繰り返すことで、慢性的に疼痛が生じたり、不安定性がでたりするだけに留まらず、足の健康感を低下させます。

これまでジャンプの着地動作やランニング中の CAI 症例での足部・足関節の動作解析に着目した研究はありますが、方向転換動作においては注目されていませんでした。私たちは、日常の臨床で検査として用いている立位での後方への振り向き動作中の足部の挙動を三次元動作解析により解析しました。特に、足部の外側に存在する踵骨、立方骨、第 5 中足骨という骨の挙動に注目しました。その結果、CAI 症例は振り向き動作時に踵骨の回外が増加することが分かりました。この成果は CAI に対する介入効果を検証する際に参考になります。

この研究は第 43 回日本足の外科学会学術集会・5th Ankle Instability Group Annual meeting 合同会議でベストポスターアワードを受賞しました。



踵骨 外果 立方骨 第五中足骨頭